

令和8年度第3回運営推進会議議事録

日 時： 令和8年9月24日（木） 15:00～16:15

会 場： グループホーム萌 レクリエーション室

出席者：

利用者家族	0名	斐川あんしん支援センター	1名
地域住民の代表	6名	利用者様	2名
欠席	2名	その他（代表・ホーム長・職員）	3名
外部講師	1名		

令和8年度 第3回 運営推進会議の開催

- グループホーム萌の令和8年度第3回運営推進会議を開催。
- 司会は代表の 代表（書記はホーム長）。

第3回グループホーム萌 運営推進会議の開会と会議目的

- 会議の目的は、地域の皆様に施設の日々の取り組みを理解・周知・深化してもらうこと。
- 「利用者・職員が安心して過ごせる施設づくり」「地域向け防災対策」「おむつ研修」の3つの視点で進行し、有益と感じられる会議を目指す方針で合意した。

参加者・現況報告

- 職員紹介:
- ゲスト紹介:
 - ユニチャームの排泄ケアコーディネーター。元作業療法士でおむつに関する情報提供を行う。
- 初参加の推進委員紹介:
 - 近隣小学校校長。4月に赴任し、先週3年生が福祉学習でお世話になったと報告。
 - 元家族。母親が以前お世話になっており、今後は出席する意向。
- 職員・利用者の現況:
 - 職員は15名（常勤13名）、平均年齢48.3歳。防災士が1名から2名に増加。
 - 利用者数は17名（直近2ヶ月で逝去・退所あり）、最長で7年在籍。

年間方針と地域連携・活動報告（8-9月）

- 年間方針:
 - 「ここで暮らせてよかった」を大切にする。
 - ホームの日常や取り組みを地域へ発信する。
 - 地域で認知症の方を支える輪を拡大する。

- 活動報告:
 - 5枚の花びら（当事者の安心・つながり等）に基づく支援を継続。
 - 買い物同行、地域の祭り、お茶会への参加や、千羽鶴を広島へ送付するなどの活動を実施。
 - 利用者の「自分らしさ」を支援するため、敬老会（銭太鼓、ギター歌謡等）や稲刈り、料理（焼きそば、パン、ゼリー等）などのイベントを実施した。
 - 2026年10月10日の文化祭「塩原コミ展」に出展予定で、利用者が作品を制作中。
- 学校連携:
 - 荘原小学校で「あいサポーター」に関する福祉学習会を実施。「目の前の人を笑顔にしよう」をテーマに、障害について知り支え合う心を育むことを目的とし、11月まで継続予定。
 - 校長からは、3年生向けの内容が非常に質が高かったと評価された。

防災対策の強化

- 災害事例の教訓（熊本地震）：300施設が被災し、停電・断水が長期化。DMATが介入する事態となった教訓から、ライフライン途絶を前提とした備えの強化が必要であることを確認。
- ライフライン途絶時の優先順位:
 - 一般的な優先順位は「1.水、2.トイレ、3.明かり、4.通信・電源」と提示。
 - 夜間は「明かり」の優先度が上がるとの意見があり、状況に応じた調整が必要と結論。
- 防災備品の導入:
 - ポータブル電源とソーラーパネル、7～10年保存水、簡易トイレ（100回分）、ランタンを導入。
 - 季節対策として、夏は扇風機、冬はカイロや石油ストーブ等を準備する方針。

研修「おむつについて」（ユニ・チャーム様）

- 研修の目的: アンケートの要望に応え、排泄ケアの専門知識を学ぶ。排泄ケアは利用者の尊厳に関わる一方、介護者の負担も大きい。
- おむつの種類と選び方:
 - 基本: 体の状態（軽度・中度・重度）に合わせて選ぶ。アウター（外側）とインナー（パッド）を組み合わせ、汚れたインナーのみを交換することで負担とコストを軽減。
 - 軽失禁用パッド（さわやかパッド）：吸水量が異なるため生理用ナプキンとの使い分けを推奨。
 - 紙パンツ（リハビリパンツ）：軽～中度の状態で使用すると、トイレに行く能力が保たれリハビリ効果が期待できる。
- 紙パンツの体験とサイズ選び:
 - 参加者がズボンの上から着用体験。「締め付けがなく抵抗感がない」との感想。
 - 締め付けを嫌い大きめを選ぶと漏れの原因になるため、適正サイズが重要。サイドを引っ張り「腕1本分」の余裕が目安。
 - 店頭では「ウエスト・体重」の目安を参考に、大きすぎるサイズを避けることを推奨。
- パッドの正しい装着方法:
 - パッドの底をおむつの底までしっかり入れ、前後を貼り付け、最後に股下に密着させるとゴワつきが減り漏れにくくなる。
- 男女差と高吸収パッド:
 - 基本的な使い方は男女共通だが、男性は漏れやすい傾向がある。

- 夜間などには 1200cc（約 8 回分）などの高吸収パッドを活用し、介護負担軽減と本人の安眠確保を図る。

- 腰痛予防体操: 厚生労働省推奨の体操を紹介。前屈姿勢が多い介護職のリフレッシュに有効。

お楽しみコーナーと試食

- 職員が、利用者と一緒に作った旬のイチジクを使用したキャラメルショートケーキを紹介。
- 参加者は試食し、「ほろ苦くて美味しい」「秋らしい」などの感想を共有した。

運営推進会議の総括

- 災害への備えの重要性を再確認した。
- 季節に応じた施設の取り組みが、施設の魅力になっていると評価された。
- おむつ研修について、パッドの活用法など専門的な知識を学ぶことが有益だったとの感想が述べられた。
- 運営推進委員会様が会議を締め、ユニ・チャーム様への謝辞と共に閉会した。

アンケートより (N=8)

1. 介護全体の内容はわかりやすかったですか？

とてもそう思う 8名

2. 萌の取り組みは理解できましたか？

とてもそう思う 8名

3. 職員の説明や雰囲気から「安心・信頼できる施設」だと感じましたか？

とてもそう思う 7名

4. 今後も地域の一員として、この施設に関わりたいと思いましたか？

とてもそう思う 7名

5. 地域に開かれた施設としての姿勢に共感できましたか？

とてもそう思う 8名